

# 「非認知的能力」の重要性とそれを育む援助

～3法令の改訂(定)を踏まえて～



日時：平成29年9月12日(火) 場所：福祉人材研修センター

【研修講師】千葉大学教育学部 准教授 砂上 史子 氏



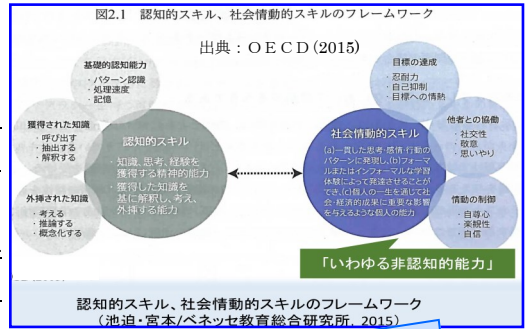
【ねらい】乳幼児期に非認知的能力を育むことの重要性やその援助の在り方について理解を深め、保育の専門性を高める。

## 【研修の様子】

### 1. 非認知的能力の重視

○主体的に環境に向き合うことを重視した質の高い幼児教育を受けた子どもたちは、幼児教育を受けていない子どもたちと比べ、その後の学力や所得等の向上、犯罪率での低下等がみられる。(ヘックマン2006)

○非認知的能力は、右の図のように雪だるま式に身に付いていく。幼児期にできた種の雪玉(非認知的能力)が小さくバランスが悪いとうまく転がらないが、バランスがよく大きい雪玉であれば、よく転がり大きい雪玉となる。(池泊・宮本ベネッセ2015)



乳幼児期に育んだ非認知的能力が、その後の人生のスキル獲得に大きく影響。

非認知的能力は、その後に獲得していく認知的能力の向上にも寄与する。

「非認知的な能力」とは、経済学者ヘックマンが提唱した能力で、IQ（認知的能力）以外の能力。経済協力開発機構（OECD）では、社会情動的スキルと言われ、「目標の達成（忍耐力・自己抑制・目標への情熱）」「他者との協働（社交性・敬意・思いやり）」「情動の制御（自尊心・楽観性・自信）」に関わるスキルとして整理されている。

### 2. 遊びの中で育つ非認知的能力

#### ① 3法令の改訂(定)について

○「幼児期において育みたい3つの資質・能力」

「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」幼児教育から小学校以上の学校教育へと貫かれている資質・能力。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の項目)」

到達目標ではなく、方向目標。保育者の願いであることに留意。

これらは、遊びを通しての総合的な指導で育まれるもので、5領域での総合的な指導の結果として育つもの。



#### ② 英国REPEY調査より

優れているプリスクールとは、

- 温かく応答的な関わりがある。
- 「ともに考え、深め続けること(=協同的な学び)」と呼ばれる関わりがある。
- 子ども主導の遊びや活動、子ども中心で教師がつなぎ発展させる遊びや活動が多い。

温かく応答的な関わりとは、元気で明るい、子どもの声掛けに応答する、否定的でない、といった基本的な関わりのこと。



遊びの中で「心動かされる体験」や「挑戦的な活動」を保障すること、つまり、保育者や友達と一緒に「遊び込む」経験が非認知的能力を育成します。その遊びを支えるものが、今回の幼稚園教育要領等の改訂で重視されている教材研究です。また、保育所保育指針等で重ねて強調されているように、保育者が「愛情豊かに」「応答的に」関わることも、非認知的能力を育む重要な要素です。

#### 【参加者の感想】

- 3法令の改訂(定)のいきさつがよく分かった。新しく加わった言葉から、社会背景や保育者に求められていることを考え、保育に具体的におおすことが大切なのだと感じた。
- いつも当たり前前に大切にしてきたことを、先生が言葉にしてまとめてくださったように感じた。子どもたちの声を拾って、一緒に考えたり遊んだりしながら、保育を楽しみたい。また、どういう言葉かけが応答的で、どういう関わりが愛情豊かなのか、自身の保育を振り返り、関わり方を検証したい。
- DVDの「箱んでハイタワー」のような、考えて、試して、失敗しながら自分たちでやり遂げる活動を実践していきたい。自分たちで考えて自由に遊ぶ保育の実現のために、教材研究を日常的に、継続的に行っていきたい。

子どもたちの笑顔が見られる保育をめざして...

